

さいたまの学童ほいく

.06-1 / 2006年6月29日 埼玉県学童保育連絡協議会

〒330-0854さいたま市大宮区桜木町4-1005 048-644-1571FAX644-1572

http://www.geocities.jp/saitama_gakudou/

e-mail:gakudoust@yahoo.co.jp 【郵便振替】00160-7-93727

第34回埼玉県学童保育連絡協議会総会が5月27日、さいたま市内で開催され、26市町村から約140人の保護者と指導員が参加しました。

会長「私たちの要求が自治体と国を動かしてきた」

冒頭、薄井俊二会長が以下のようにあいさつしました。

「そもそも学童保育は、学校のように制度が先にあって整備が図られてきたものではない。学童保育がほしい、自治体として施策化してほしいという保護者たちの願いと必要があって自治体が施策をつくり、その後に国が制度をつくるというスタイルで発展してきた。全国的には学童保育は基準の類がないが、2004年3月に全国に先駆けて埼玉県が『放課後児童クラブ運営基準』を策定した。他の自治体にも波及し、ついに厚生労働省も『ガイドラインの研究をしたい』と答弁するまでになった。これなども、埼玉県が先頭になって全国を引っ張った典型例」「しかし、学童保育はまだ課題が山積している。とりわけ、保育内容、指導員の問題は未整備。どのような保育が求められるのか、それはどういう研修によって実現されるのか、保育力量を高める制度や指導員を維持するための身分や地位はどういうものか等、制度上の問題は山積み。県連協としても団体、行政、議会と協力・連携して学童保育をよりよいものにするために活動したい」「子育てに喜びを感じられる社会づくりが究極の私たちの目標。その実現のために今年も奮闘したい」

専従職員複数実現に伴う会費値上げが承認されました 複数職員体制を生かして運動の飛躍的發展を！

第34回埼玉県学童保育連絡協議会総会開催

羽澤新専従「二人にしてよかったと言われるように」

続いて、知事（代理）県議、保育問題協議会から来賓あいさつをいただきました（知事あいさつは別項）。

議事にうつり、2005度の活動のまとめ、会計決算が提案され、質疑の後、原案が拍手で採択されました。続いて2006年度の方針と予算案、会費値上げに伴う規約改正案が提案されました（詳しくは『議案書ダイジェスト版』参照）。全体として13本の質問・発言があり、全議案が拍手で採択されました（質問・発言は裏面）。

最後に薄井会長が、「今回の総会は本当にシビアな議論をたくさん重ねてきてもらってありがとうございました。新体制をできる限り円滑に進めてきたい」と述べ、続いて新専従職員の羽澤憲治さんが自己紹介し、「勉強してみなさんの話をよく聞いて、二人にしてよかったと言われるように是非、頑張りたい」と決意表明しました。

来 賓 順不同、敬称略

県知事 = 上田清司様代理・福祉部長 = 大津暁 / こども家庭課副課長 = 安藤哲 公明党県議 = 塩野正行 / 日本共産党県議 = 山岸昭子 / 民主党県議 = 秦哲美 県保育問題協議会事務局長 = 勝浦盛幸 / 県私立保育園連盟 = 島村よう子 / 障害者の生活と権利を守る県民連絡協議会副会長 = 国松公造 / きょうされん埼玉支部事務局長 = 石田恵子 / NPO法人彩の子ネットワーク = 鈴木玲子 / 自治労県本部副執行委員長 = 山下弘之 / 同執行委員 = 槌田順 / 県学童保育指導員労組書記長 = 野々村朋子 / 全日本建設交運一般労組県本部執行委員 = 田村智

祝電・メッセージ 順不同、敬称略

県議会議長・田島敏包 / 県自由民主党議員団団長 = 大沢立承 / 県議会地方主権の会代表 = 笠原英俊 川越市長 = 舟橋功一 / 上尾市長 = 新井弘治 / 八潮市長 = 多田重美 / 坂戸市長 = 伊利仁 / 草加市長 = 木下

博信 / 幸手市長 = 町田英夫 / 鶴ヶ島市長 = 藤縄善朗 新日本婦人の会県本部 / 埼玉自治体問題研究所理事長 = 横尾邦夫 / さいたま教育文化研究所所長 = 山口和幸 / 日本機関紙協会県本部理事長 = 金子勝 / 埼玉のうたごえ協議会議長 = 山県健二 自治労連県本部中央執行委員長 = 山口正則 / 県高等学校教職員組合中央執行委員長 = 米浦正 / 県教職員組合中央執行委員長 = 浅井勉 / 県職員組合執行委員長 = 戸谷和男

上田清司県知事あいさつ（抜粋）

放課後児童クラブは、仕事などで昼間、保護者が家庭にいない子ども達にとって、家庭に代わる大切な生活の場となっております。そして、子どもをめぐる社会環境が悪化する中で、保護者が安心して子どもを預けることのできる放課後児童クラブは、「児童の健全育成」や「仕事と子育ての両立支援」の観点から、その必要性がますます高まっています。このため、県では、昨年2月に策定した「埼玉県子育て応援行動計画」において、「放課後児童クラブの充実」を重点施策として位置づけたところでございます。この計画に基づき、児童の受け入れ態勢を整備するとともに、全国に先駆けて策定した「放課後児童クラブ運営基準」を活用して、県内のどの地域においてもこの基準が満たされるよう、保育の質の向上を図っております。

また、こうした施策を推進するための予算として、平成18年度の放課後児童健全育成事業費につきましては、平成17年度に比べ5.4%増となる約14億3,000万円を確保いたしました。

近年、急速な少子化が進行しておりまして、社会の活力低下が心配されているほか、子ども同士が互いに切磋琢磨する機会が減るなど、子どもの健やかな成長への影響も懸念される状況となっております。

こうした中、学童保育連絡協議会の皆様方が、放課後児童クラブの運営に熱心に取り組みられ、子どもの健やかな発達に、大いに貢献していただいておりますことは、誠に心強い限りです。

私は、今後も、子どもを持ちたい人が安心して子どもを産むことができ、子育てに夢を持てる、「日本一の子育て・教育の県づくり」の推進に、全力で取り組んでいく決意でございます。

総会議事の概要

専従複数化に伴う会費値上げについてのやりとり

木下さん（朝霞市保護者会連絡会・保護者）
社会福祉協議会委託の形態。10クラブすべて80名以上となっており、会費値上げ幅が大きい。払えないところはどうしたらよいか？

県連協 会費が払えないから県連協を脱会するということがないように一緒に考え合っていきたい。県連協としても専従複数が地域の活動に役立ち「それなら会費値上げを頑張っていこう」となるように頑張っていきたい。

栗原さん（和光市連絡協議会・保護者）
全額いっぺんに支払うということになると市連協の会計がパンクしてしまう。そこは、相談に応じてほしい。地域の運動も県の運動もつぶさないように県連協としても地域をサポートしてほしい。私たちも、振れる袖を長くできるような方法を考えていきたい。

垣見さん（新座市学童保育の会・保護者）
当市では11月から2月にかけて会費値上げの論議をしてきた。多数の地域から県連協の代表委員会に出て来てもらい十分な論議をする必要があったと思う。当市では学童保育の会三役がすべてのクラブに入って「県連協の役割は何なのか？」「新座市の保育の会のこともよく見えない」とかキャッチボールをする中で最終的には承認してもらった。民主主義は時間がかかると実感した。そういう議論を代表委員会でもしっかりやっていかなきゃいけないと思う。

西田さん（さいたま市連絡協議会・保護者）
今回の専従複数化の提案の答えが1つしかないことに困った。結果的には賛成となったが、専従1人がいったいが何をできるか、担っていくかを明確にしてほしい。

柏木さん（県指導員連絡協議会・飯能市指導員）
今年度、県指導員連協は30周年を迎えたが、その歴史や資料を調べるに際して現専従職員の力が大きかった。現専従職員は、加盟している640人の指導員1人ひとりを把握している。指導員の仕事とは

何か、指導員自身が仕事内容を整理して語れるようにならなくていけないと指導員を励まし、指導員連協と一体となって指導員の研修と運動をつくってきた。現専従の仕事はオーバーワークとなっている。

赤池さん（所沢市学童保育の会・保護者）
予算案を見ると、会費値上げによって単年度で537万円の黒字を見込んでいるが、実際には支払えないクラブも出てくるのではないかと？所沢では倍くらいに値上げとなるが、苦しいときに県連協に助けられたこともあり、みんなで支えていこうと今回の値上げに賛成することになった。支払えないクラブについて、事務上のやりとりで変えるのではなく明確な会費制度として値上げの幅を低くするとかのやり方を考えられればよいと思う。

県連協 会費値上げによって脱会するクラブがないようにというのはその通りですが、県連協の運営委員会や代表委員会での議論としては、会費にダブルスタンダードを設定するというのはよろしくないということになった。その分、できる限り相談に応じていくという方がよいというのが全体としての意見だった。

加賀谷さん（富士見市ほごしゃ会連絡会・保護者）
毎年500万円程度の黒字が繰り越されて積み上げられていくのでは？

県連協 向こう5年後の予算を見越して会費値上げの算定を行ったつもり。

「放課後子どもプラン」に対して県連協として方針を！

小池さん（NPO法人・草加元気っ子クラブ・理事、保護者）
文部科学省と厚生労働省が先ごろ発表した「放課後子どもプラン」について、政府は19年度から実施すると明言していることですし、県連協としての方針はどうなのか？流れとしては「全児童対策事業」に一体化していくということがある中で、「全児童対策事業」に対する評価を明確に打ち出していけないといけないのではないかと？

県連協 「放課後子どもプラン」については極めて重要な事態であると認識している。新年度の体制の中で対応していきたい。

選出された新運営委員

三役 会長 薄井俊二（さいたま市） 副会長 上別府克寛（三郷市）／小林鉄男、志村伸之（新座市）／柄澤悟（ふじみ野市）／河野和浩（飯能市）／松崎波留美（寄居町）／片山恵子（さいたま市・指導員）／河野伸枝（飯能市・指導員） 事務局 局長 山本和順（東松山市） 同次長 森川鉄雄（専従職員） 運営委員 【東武沿線】土井幹夫（春日部市）／山本勝子、川崎雅子（幸手市）工藤恭子（八潮市）／迫直樹（草加市） 【京浜沿線】木村徹、白井昭次（さいたま市）／口地博行（上尾市）／秋山雅代、進藤恵子（北本市） 【東上沿線】照井浩二、谷口俊藏（坂戸市）／谷田悦男、塩野豊子、市川佐千子（川越市）／豊田瑞子（日高市） 【西武沿線】矢部剛士（所沢市） 【北部ブロック】（ ）（深谷市）／（ ）（熊谷市） 【障害児学童保育ブロック】石毛俊夫（川口市・指導員）／阿利澄江（狭山市・指） 【指導員連協】佐藤正美（さいたま市）／細野恵（所沢市）／柏木なほ子（飯能市） 【『日本の学童ほいく』誌編集委員】小川美里（富士見市・指導員） 【会計監査】熊谷守朗（上尾市・保護者）／小澤明子（さいたま市・指導員） 【事務局】羽澤憲治（専従職員）